

目指す学校像	希望にあふれ みんなに愛される学校
--------	-------------------

重点目標	1 ICTの活用による個別最適な学び、探求的な学びの推進《実社会で新しい価値を生み出す力の育成》 2 安心・安全で活気ある教育活動の推進《6つの行動目標の励行、あいさつ運動の実施》 3 「真の学力」を育むための教育活動の推進《特色を生かした教育活動の推進》 4 ICTを活用した授業改善《教職員研修の充実》
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○落ち着いた学習に取り組める児童が多い。令和4年度の全国学力学習状況調査の児童質問紙の項目を見ても「勉強は大切」「授業の内容はよく分かる」の項目がかなり高い結果となっており、学習に対して意欲と目的意識をもって学習に取り組んでいる児童が多い。 ○令和4年度の全国学習・学習状況調査の正答率は、国語・算数ともに市平均を上回っており、特に国語の「書くこと」においては、15pt.上回っている。 <課題> ○算数の「変化と関係に関する問題」では、正答率が、3割を切っており、理由を記述したり、日常生活の場面に即して判断したりする問題について課題が見られた。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・SDGsの実現を目指した谷田小学校「総合的な学習の時間」の創出	①ICTタイムや授業でドリルパーク等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の定着に取り組むことができたか。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学力向上カウンセリングを受けることにより、課題が見られた点について、より効果的な手立てを学校全体で共有する。	①ICTタイムや授業でドリルパーク等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の定着に取り組むことができたか。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できたか。 ③調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手だてを学年ごとに設定することができたか。	①朝のパワーアップタイムや授業でドリルパークやスタディサプリを活用し、基礎基本の定着に向けて取り組むことができた。タブレットを持ち帰り、家庭でもタブレットによる課題を行った。 ②児童が自身の結果を情報端末上のシートに入力し、全国学力・学習状況調査の自己採点を行って、自らの学習状況を把握することができた。 ③学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手だてを学年ごとに設定することができた。	A	市学習状況調査は、今年度もタブレットによる実施であったが、問題を解く際に、パソコンの操作スキルが必要となる。扱いに慣れていない学年や児童は、問題を解く際にかなり戸惑うことになる。日頃の授業からタブレットを当たり前に使えることが前提になってくるので、児童がしっかりと活用できるように、意図的に学習計画等に組み込んで、学年や教員の得手不得手によって左右されないようにすることが必要である。	児童のアンケートの結果を見ると、挨拶や健康に関する項目などに関しては学校だけではなく、家庭での協力もお願いしないと、改善できるものではないと感じる。ICT教育と新型コロナウイルス感染症の影響が、子どもの考え方も変わってきており、メールやラインでお互いが深入りしなくなり、こんなものだろうとあいまいな考え方をして、先生に相談しない子どももいると思う。「先生が話を聞いてくれますか」の肯定意見がやや下がっているのも、先生にゆとりがないことを子どもも感じているのではないかと。昨今の子どもの考え方を親にも理解してもらい、先生と親がお互いに介入し合っていくことで、学力向上はさらに進むと考える。	
2	<現状> ○児童は全体的に落ち着いており、あいさつがよくできる。家庭での生活習慣が身に付いている児童が多い。 ○昨年度、学校内でのけがの報告は1309件、そのうち医療機関を受診したけがは55件であった。 <課題> ○学校でのルールを守ることやあいさつなど、教員からの指導を守らせるだけでなく、なぜそういう行動をとるのが大切なのかを子ども自身が考え、気持ちよく過ごしたり、危険を回避して安全に生活したりするための力を育てることが課題である。	・「その日のことは、その日のうちに」の共通理解と徹底 ・安心・安全で活気ある教育活動の推進	①生活目標の後に一人一台端末を活用したアンケートの実施や心と生活のアンケート、なかよしアンケートの定期的な実施と結果の分析を行い、特に対象となる児童には、速やかに面談を行う。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用し、教職員全体で児童の状況を把握、分析し、適切なタイミングで、組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80パーセント以上となったか。 ②アンケートの結果を受けて児童との面談を実施し、児童一人の状況を継続的に把握できる記録を蓄積する。	①学校評価教員アンケートにおいて、生徒指導と教育相談の関連する12項目の肯定的な回答の割合が82.5%となった。 ②なかよしアンケートの結果を受けて、教員が児童との面談を実施し、児童一人ひとりの状況を把握し、継続して支援していく体制を整えた。さらに校内委員会を通して、教職員全体で児童の状況を把握、分析し、適切なタイミングで、組織的に支援、相談を行う。	A	対象となる児童への速やかな面談や課題がある児童への組織的な体制での支援は行っているが、対応や報告が遅れる場合がある。全教員の「その日のことは、その日のうちに」の共通理解と徹底が引き続き必要である。 教育支援・相談に係る校内委員会でICTを効果的に活用する点では、十分でなかったため、今後さらに活用方法を検討していきたい。	「安心安全」は大きいテーマであるので、どうしていけばいいのか、学校・地域が子どもに伝えていかないといけない。そのためには、保護者や大人も、安心安全で暮らしていかないと子どもに伝えられないので、大人の意識が大切である。秋に開催された谷田公民館文化祭の際、ボランティアの子どもたちが生き生きとお手伝いをしていて、子どもは大人を見て学ぶ。子どもが、自分たちが何かを得るためには、学校地域が一体になって伝えていく必要があると感じる。	
3	<現状> ○学校運営協議会で、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 <課題> ○学校運営委員会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域などに広め、地域の人々と共有できるようにする。	・校庭の芝生を活用した特色ある教育活動の充実 ・学校運営の改善と児童生徒の健全育成に向けた谷田小学校コミュニティ・スクールの実施	①芝生を活用した行事や地域を巻き込んだ行事を実施し、児童が学校・地域を大切に作る気持ちを育成する。 ②様々な行事等でも芝生を活用し、ホームページや学年便り等で、家庭にも周知する。	①芝生活用委員会を中心に、芝生の活用について検討し、継続的に実施していけるよう一覧表を作成する。 ②ホームページや学年便りで、芝生を活用した行事の情報を発信し、家庭、地域と共有する。	①芝生を活用した行事や地域を巻き込んだ行事を実施し、芝生活用委員会を中心に、活用についての一覧表を作成した。 ②ホームページや学年便りで、芝生を活用した行事の情報を家庭、地域に発信し、共有することができた。	A	地域ボランティアさんが手入れをしてくれるおかげで何とか維持できているが、もともと市の施策で始めた事業であるので、予算面等、市のバックアップを要望する。また、ボランティアさんが高齢のため、今後の後継者となる人材確保も課題である。	谷田小学校の特色である校庭の芝生の維持管理についてはボランティアの方々への献身的活動があつてこそのもので感謝している。また、芝生の管理だけでなく石などの危険物の除去や樹木の剪定等、安心安全な環境づくりにも欠くことできない存在となっている。中学校とも連携し、卒業生によるボランティア活動の場として広い世代で関わられるようになるとさらに良い。	
4	<現状> ○昨年、学校課題研修で、効果的なICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり、研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、より深い教材研究を行い、授業を行っている。 <課題> ○ICTの活用について、教員間で取り組みの差が見られる。	・学校課題研修を中心とした学びの自律化・個別最適化実現のためのアクション	①ブロック、研究部、そして教科を横断しての組織的な研修を実施し、全学年で、研究授業と公開授業を実施する。 ②エバンジェリストを中心に各教科と総合的な学習の関連を図りながら、STEAMSタイムの内容の検討と年間計画への位置付けを行う	①これまで取り組んできたものに、さらに修正や付け足しをしながら、誰もが活用できる谷田小学校ICT実践事例集を作成する。 ②今年度の実践を基にSTEAMSタイムを位置付けた総合的な学習の時間の年間計画を作成する。	①ブロックや研究部で教科を横断しての組織的な研修を実施し、研究授業と公開授業を実施した。前年度までの物にさらに追加する形で、ICT実践事例集を作成した。 ②エバンジェリストを中心に今年度の実践を各教科と総合的な学習との関連を図りながら、STEAMSタイムを位置付けた総合的な学習の時間の年間計画を作成した。	B	昨年度の反省を踏まえて、専門部単位での授業準備・指導案検討を行うなどができた。しかし、教科を横断しての取組の成果検証が十分なされていないため、今後は、専門部の活動をさらに充実させ、研修を深めていくことが大切である。	学校の教員がより良い授業を行うため日々研修して授業力を高めていることは伝わってきた。教員の負担を減らすために、プログラミング教育などの新しい分野において、専門的知識を有する人材の活用をさらに進めていけるとよいのではなかろうか。	